

造形的な見方・考え方を働かせる高学年図画工作科と中学校美術科指導の工夫 — 表現及び鑑賞の中で造形的な特徴を捉えるメモの活用を通して —

安芸太田町立安芸太田中学校 永井 孝直

研究の要約

本研究は、造形的な見方・考え方を働かせる高学年図画工作科と中学校美術科指導の工夫について考察したものである。文献研究から、本研究では「造形的な見方・考え方を働かせる姿」を、感性を基盤に、発達段階に応じて設けられた〔共通事項〕が一人一人の児童生徒において、表現及び鑑賞の活動の中で十分に活用されている姿であると定義した。そのため、〔共通事項〕を表現及び鑑賞の中に位置付けた指導計画が重要となることが考えられ、児童生徒が〔共通事項〕に示されている内容である造形的な特徴からの気づきを「造形メモ」として残し、表現や鑑賞の活動に生かす授業を行った。児童生徒は、鑑賞の活動で保存した「造形メモ」を参考に自分の意見を述べたり、毎時間の活動を振り返って蓄積した「造形メモ」からヒントを得て、絵に表す際の発想や構想に生かしたり、友人の作品や美術作品の造形的な特徴に着目して自分なりのイメージをもって感想を述べたりすることができた。その結果、児童生徒の作品や鑑賞文などから、造形的な見方・考え方を働かせるために「造形メモ」が有効に作用していることが分かった。

I 主題設定の理由

中央教育審議会初等中等教育分科会（第100回）「新しい学習指導要領等が目指す姿」では、学校段階ごとの特徴を踏まえつつ、前の学校段階での教育が次の段階で生かされるよう、学びの連続性が確保されることが重要である⁽¹⁾と述べられている。これを受け、小学校、中学校学習指導要領（平成29年告示）では、各教科等で学校段階間の連続性を意識した改訂が見られる。小学校図画工作科、中学校美術科の目標においては、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などや、美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することが示された⁽²⁾。

所属中学校区では、小中連携授業を行っており、筆者は2中3小の美術科、図画工作科の担当をしている。中学校の生徒は、美術作品や自分たちの作品を鑑賞する活動では、「シンプルだね、形が独特だね」などのように、形や色などが「どのようなか」「全体や部分にどう作用しているか」について根拠を明確に、または造形に対し具体的に語ることができていない。小学校の児童も、友人の作品について「きれい、かわいい、すごい」といった感想に止まり、造形について具体的に捉えている様子は窺えない。つまり、小・中ともに、造形的な見方・考え方が表現及び鑑賞の活動の中で十分に生かされていないことが、所属中学校区の課題と思われる。

これらのことから、小・中を通して、表現及び鑑賞の活動の中で、造形的な見方・考え方をより豊かに働かせる機会や手立てを設けていくことが必要であると考えられる。本研究では、中学校教諭として校区内小学校へ兼務する立場から、学校段階ごとの特徴を踏まえつつ、前の学校段階での教育が次の段階で生かされるよう、学びの連続性を確保し、造形的な見方・考え方を働かせる高学年図画工作科と中学校美術科指導の工夫について研究する。

II 研究の基本的な考え方

1 造形的な見方・考え方を働かせることについて

奥村高明（2016）は、学習指導要領改訂における美術科・図画工作科の学びを本質的に見直す作業とは、20年度の改訂で教科の基盤的な部分である〔共通事項〕を取り出したことと、29年度の改訂で「見方・考え方」で提示された教科の学びの「本質的な意義を捉え直すこと」であり、これらは同じ文脈にあると述べている。そしてこの本質的な見直しで扱われた「見方・考え方」と〔共通事項〕の関係を指し、言い換えれば、「見方・考え方」は、感性を基盤に、〔共通事項〕が一人一人の児童生徒において十分に活用された姿として見ることができる⁽³⁾と述べている。

さらに、小学校学習指導要領（平成29年告示）解

説図画工作編（平成30年，以下「小解説」とする。）によると，〔共通事項〕に示される内容が，造形的な見方・考え方を働かせる児童の具体的な姿であると述べられている¹⁾。高学年図画工作科と中学校美術科における〔共通事項〕の内容を表1に示す。

表1 〔共通事項〕の内容⁽⁴⁾

小学校図画工作科（第5学年及び第6学年）	
知識	ア 自分の感覚や行為を通して，形や色などの造形的な特徴を理解すること。
思考力，判断力，表現力等	イ 形や色などの造形的な特徴を基に，自分のイメージをもつこと。
中学校美術科（全学年共通）	
知識	ア 形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
知識	イ 造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

このように，〔共通事項〕は，発達段階を考慮して設けてあり，系統や構造は同一であることが分かる。そして，中学校美術科における造形的な見方・考え方を働かせる姿には，図画工作科における造形的な見方・考え方を働かせる姿と比べ，形や色彩，材料，光などへの理解の深さや，全体のイメージや作風を捉えるといった視野の広さなどが求められていることが分かる。

図画工作科と美術科における知識は，単に新たな事柄として知ることや言葉を暗記することに終始するものではなく，児童生徒一人一人が，個別の感じ方や考え方等に応じながら活用し身に付けたり，実感を伴いながら理解を深めたりし，新たな経験から再構築されていくようなものである。特に，自分の感覚や行為を大切にしたい学習活動をするにより，一人一人の理解が深まり，知識の習得となる過程は，図画工作科が担う重要な学びである⁽⁵⁾。

これらのことから，図画工作科と美術科における造形的な見方・考え方を働かせる姿とは，感性を基盤に，発達段階に応じて設けられた〔共通事項〕が一人一人の児童生徒において，表現及び鑑賞の活動の中で十分に活用されている姿であると考ええる。こういった姿が，図画工作科と美術科で育成すべき資質・能力に不可欠なのである。

2 〔共通事項〕を位置付けた活動について

(1) 図画工作科と美術科における〔共通事項〕

「小解説」には，「〔共通事項〕の共通とは，『A表現』と『B鑑賞』の2領域及びその項目，事項の全てに共通するという意味である。さらに，中学校

美術科においても〔共通事項〕を示しており，小学校図画工作科と中学校美術科において一貫して育成することに配慮する必要がある。」²⁾と，学校段階間の連続性に配慮した文言がある。

また，中学校学習指導要領（平成29年告示）解説美術編（平成30年，以下「中解説」とする。）によると，「〔共通事項〕の『共通』とは，『A表現』と『B鑑賞』の2領域及びその項目や事項の全てに共通するという意味である。同時に，発想や構想，技能，鑑賞に関する資質・能力に共通して働くという意味であり，小学校図画工作科の学習も考慮しつつ，指導計画を作成することが重要である。」³⁾と述べられている。

つまり，〔共通事項〕と「造形的な見方・考え方」の関係を鑑みると，小・中学校の両学習を考慮しつつ表現及び鑑賞の活動の中で〔共通事項〕の内容を位置付けた指導が，小・中学校で「造形的な見方・考え方」を働かせ，学びの連続性を確保することにつながり，各活動で身に付けるべき資質・能力を育成することになる。

(2) 表現の活動と〔共通事項〕

「小解説」には，表現の活動で造形的な資質・能力が自然に発揮されている姿について「つくりだす喜びを味わうとともに，見たり感じたりする力，次にどのような形や色にするかを考える力，それを実現するために用具や表し方を工夫する力，一度つくったものを改めて見て，新たなものをつくりだそうとする力などが働いている。」⁴⁾と述べられている。また，「児童の自己評価の活動を形や色，イメージなどの〔共通事項〕に示す事項の視点から見直し，具体的にする方法」⁵⁾や，言語活動の充実について「自分の思い付いたことや，表したいと思っていることを話したり聞いたりすること」⁶⁾に配慮するように述べられている。つまり，児童が作品をつくり，つくりかえているとき，〔共通事項〕に示す事項の視点から自己の作品を振り返ったり，作品について考えを話したり聞いたりする機会と，それらの考えを具体化する手立てが，表現の活動において造形的な見方・考え方を働かせることにつながると考える。

「中解説」では，「自分としての意味や価値をつくりだすためには，自己を見つめる機会や他者と交流する場を設け，主体的，対話的な活動などを通して考えを深めるなどしながら，生徒が自分としての表現の主題を明確にしていく過程を重視していくことが大切である。」⁷⁾と述べられている。「小解説」と同じく，こういった話し合いの機会と自己を振り

返る手立てが重視されていることが分かる。

ただし、制作途中の自分や友人の作品について、「上手だね、かっこいい」などというように、直感のみを基にした振り返りや意見では造形的な見方・考え方を働かせているとは言えない。児童生徒一人一人の感性を基盤にしつつ、〔共通事項〕に示す事項の視点で具体的に振り返ったり、交流したりすることで、造形的な見方・考え方を働かせた表現の活動を促すと考える。

(3) 鑑賞の活動と〔共通事項〕

「小解説」では、鑑賞の活動を〔共通事項〕に示す事項の視点で見直した指導例として「作品などの鑑賞では、言葉で整理する活動を取り入れることで、児童が捉えた形や色、心に思い浮かべたイメージなどを具体的にすること」⁸⁾を挙げている。

また、高学年では、〔共通事項〕で示す内容を取り出して、自分の作品や美術作品などのイメージと関連付けることができる傾向があるとされ、他者との交流を重視した言語活動が薦められている⁶⁾。

「中解説」では、「『B鑑賞』では、(中略)漠然と作品を鑑賞するのではなく、〔共通事項〕に示す事項の視点から鑑賞することで、作品を構成している形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に各自が捉えたイメージなどについて話したり他の生徒の意見を聞いたりするなどして、作品の見方や感じ方を広げたり、〔共通事項〕に示されている内容についての理解を深めるなどの学習活動が考えられる。」⁹⁾と示している。

「小解説」及び「中解説」に示されているように、鑑賞の活動では、〔共通事項〕に示す事項の視点から鑑賞すること、他者と考えを交流し、言葉で整理して具体化することが求められている。小学校段階から〔共通事項〕に示す事項の視点を用いた活動を積み重ねることで、中学校美術科での鑑賞の活動の基盤にもなり、学びの連続性を支えたと考える。

(4) 表現の活動と鑑賞の活動

「小解説」には、「表現と鑑賞は本来一体であり、相互に関連して働き合うことで児童の資質・能力を育成することができる。」¹⁰⁾と示されている。

「中解説」でも、鑑賞の活動で考えを深めたことが、生徒が実際に表現する際の構想を練る力などを高めると示している⁷⁾。

つまり、表現及び鑑賞の各活動が、相互に関連し働き合うように〔共通事項〕を適切に位置付ける指導計画が大切となる。それはすなわち、造形的な見方・考え方の鍵を握る〔共通事項〕が、表現及び鑑

賞の活動の中で十分に活用されるということなのである。小・中ともに、これを継続して行うことが学校段階間をつなげると考える。

3 表現及び鑑賞の中で造形的な特徴を捉えるメモの活用について

(1) 造形的な特徴について

学習指導要領に示される〔共通事項〕アの内容が、造形的な特徴あるいは造形の要素に関わる事項である。「指導計画の作成と内容の取扱い」から〔共通事項〕アについて、表2に整理して示す。

表2 〔共通事項〕アの内容の取扱い⁽⁸⁾

中学校美術科（全学年共通）	
〔共通事項〕アの指導に当たっては、造形の要素などに着目して、次の事項を実感的に理解できるようにすること。	
ア	色彩の色味や明るさ、鮮やかさを捉えること。
イ	材料の性質や質感を捉えること。
ウ	形や色彩、材料、光などから感じる優しさや楽しさ、寂しさなどを捉えること。
エ	形や色彩などの組合せによる構成の美しさを捉えること。
オ	余白や空間の効果、立体感や遠近感、量感や動勢などを捉えること。
小学校図画工作	
〔共通事項〕アの指導に当たっては、次の事項に配慮し、必要に応じて、その後の学年で繰り返し取り上げること。	
ア	第1学年及び第2学年においては、いろいろな形や色、触った感じなどを捉えること。
イ	第3学年及び第4学年においては、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを捉えること。
ウ	第5学年及び第6学年においては、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを捉えること。

「中解説」では、〔共通事項〕アにおいて「形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること」と示されている。これら造形の要素に関する指導の具体例は、表3のような内容が示されている。

表3 中学校美術科〔共通事項〕アの指導の具体例⁽⁹⁾

造形の要素	指導の具体例
形	見る角度や遠近の関係により形の見え方が異なることや、形の組合せによる構成の美しさ、余白や空間の効果、錯覚などの人間の視覚の特性などに気付かせる。
色彩	色の三属性や体系、色のもつ性質や感情にもたらす効果、様々な色の組合せ、配色によって印象が変化することや組合せによる構成の美しさ、類似や対照などの組合せによって分析的に、あるいは総合的に捉えさせる。
材料	材料のもつ地肌の特徴や質感、粗い、硬い、なめらか、柔らか、しなやか、冷たい、温かい、重い、軽いなど、人間の感覚や感情に強く働きかける視覚的・触覚的な特性、どのような材料の組合せが美しいか、調和するかなどについて理解させる。
光	光の当たり方により受ける印象、光がつくりだす優しさや楽しさなどの雰囲気、色料がもたらす色彩効果とは異なる効果などについて理解させる。

「小解説」では、表2の〔共通事項〕のアの指導に当たって具体的な例が示されており、表4に示す。

表4 小学校図画工作科〔共通事項〕アの指導の具体例⁽¹⁰⁾

学年	指導の具体例
第1学年 及び 第2学年	形には四角や丸といった形状、大きさ、長さ、線などの種類があること、色には赤、青などのいろいろな種類があること、木材の表面のざらざらした感じ、粘土のずっしりとした重さや手になじむ感じなどを理解させる。
第3学年 及び 第4学年	形の柔らかさ、色の冷たさ、色の組合せによる優しい感じ、面と面の重なりから生まれる前後の感じ、色の明るさなどを理解させる。
第5学年 及び 第6学年	形そのものがもつ方向感、表面の材質感の違い、色の鮮やかさ、時間的な変化の動き、大きな建物の量感や奥行きを感じ、ものの動きやバランスなどを理解させる。

「小解説」では「形や色などの造形的な特徴に着目し～」や「造形的な特徴を理解し～」という使われ方がされ、「造形の要素」という語句は出てこない。一方で「中解説」では、「形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目して～」と表現され、「造形の要素」と「造形的な特徴」は意味が使い分けられている。これはつまり、「造形の要素」とは「形や色彩、材料、光など」のことであり、「造形的な特徴」とは「造形の要素がどのようなものであるか」という意味と捉えられる。

これらのことから、本研究では、児童生徒が具体的に「どのようなものであるか」を知覚・認識できるものを、「造形的な特徴」として扱うこととする。例えば表4第5学年及び第6学年にある「形そのものがもつ方向感」は、「線の先が細く尖っている」などの具体的な事象が「造形的な特徴」と考えられる。

また、中学校美術科〔共通事項〕イの、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること⁽⁴⁾についても同じことが言え、「全体のイメージや作風」は、造形的な特徴が集合した結果であると考えられる。例えば生徒が、ある時期のカンディンスキーの抽象画を鑑賞したとき、「幾何学的な線」や「重なり」といった「造形的な特徴」に着目し、これがカンディンスキーの作風の一つであると捉えることなどが考えられる。

(2) 造形的な特徴を捉えることについて

加賀美信行(2019)は「児童は感覚や行為を通して、『造形的な視点』について気付いてはいるものの、それを自覚している児童は少ない。児童が『造形的な視点』について意識できるようにするには、活動の後の振り返りで、自己の学びや変容を文字や言葉などにして可視化することで自覚を促すことができるのではないかと考える。」⁽¹¹⁾と述べている。

「中解説」には知識として扱われる〔共通事項〕について「単に新たな事柄として知ることや言葉を暗記することに終始するものではなく、(中略)個別の感じ方や考え方等に応じながら活用し身に付けたり、実感を伴いながら理解を深めたりし、新たな学習過程を経験することを通して再構築されていくものである。」⁽¹²⁾と示されている。更に「小解説」でも〔共通事項〕のイにおける「自分のイメージをもつこと」とは「大人から与えられた知識や、社会の習慣などを受動的に理解することではなく、自分の感覚や行為とともに、イメージをもつことである。」⁽¹³⁾と示されている。

従って、「造形的な特徴を捉える」には、一方的に知識を教えるのではなく、児童生徒が表現や鑑賞の活動の中で、実感や経験を伴って能動的に理解し可視化して把握することが重要となる。

(3) 造形的な特徴を捉えるメモについて

「小解説」及び「中解説」では、表現及び鑑賞の指導を〔共通事項〕に示す事項の視点で見直し、指導内容や方法、指導上の配慮事項などを検討することが大切であると示している。〔共通事項〕に示す事項の視点で見直した指導例の一部を表5に示す。

このように、造形について理解したことを活用させたり、形や色などが感情にもたらす効果や表現の意図と工夫に注目させたりすることや、根拠を明確にして話し合わせたり、造形やイメージについて言葉で整理することで具体的にしたりすることが示されている。

表5 〔共通事項〕に示す事項の視点で見直した指導例⁽¹¹⁾

校種	指導例
小学校	自分たちの作品を相互に鑑賞する時間で、自分の感じたことや考えたことについて根拠を明確にして友人と語り合うようにする。 言葉で整理する活動を取り入れることで、児童が捉えた形や色、心に思い浮かべたイメージなどを具体的に示す。 児童の自己評価の活動を形や色、イメージなどの〔共通事項〕に示す事項の視点から見直し、具体的に示す。
中学校	自分が表現したいことを具体的にアイデアスケッチなどで表すときに、余白や空間の効果や遠近感、形や色彩などの組合せによる構成美などについて理解したことを活用して、「奥行きが感じられる形」「落ち着いた感じの配色」などを考えさせたり、主題に照らしてイメージを捉えさせたりしながら構想を練らせる。 形や色彩が感情にもたらす効果を理解しながら、表現の意図と工夫に注目させて感じ取らせたり、作風などで捉えることを理解し、同じ作者の作品を鑑賞して作風などを捉えながら見方や感じ方を深めたりする。

つまり、実感や経験を伴って能動的に理解させ、造形的な視点を言語化・可視化・具体化して把握させることが、造形的な見方・考え方を働かせる姿につながると考えられる。

そのため本研究では、児童生徒が作品等を〔共通事項〕に示す事項の視点を言語化・可視化・具体化して把握させるために「造形的な特徴を捉えるメモ（以下『造形メモ』とする。）」を授業の中で使用する。これは、児童生徒が美術作品や自分や友人の作品等から見付けた造形的な特徴についての知識やイメージを、画像とともに記録し、蓄積していき、造形との新たな出会いや気付きがある度にデータが増えていくものである。

「小解説」によると、高学年でも「形や色などを捉えることと、自分のイメージをもつことも、一体的に捉えている傾向がある。」¹⁴⁾と示されている。このことから、児童に知識とイメージを自覚させるため、客観的事実である「造形的な特徴」は「知識」として記させ、その事実に対する「自分のイメージ」は「思考力、判断力、表現力等」として記させる。この視点が、表現や鑑賞の活動で働くことになると考える。造形メモの活用イメージを図1に示す。

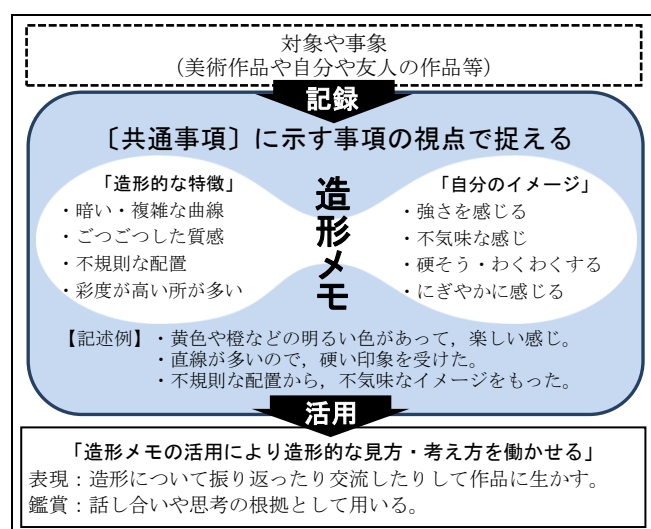


図1 造形メモの活用イメージ

中学校美術科における〔共通事項〕のイは、小学校図画工作科における「思考力、判断力、表現力等」としての扱いとは違い、「知識」として位置付けられている。図1に示される「自分のイメージ」は、児童生徒の主観であるが、中学校以降の学習では、文化や様式、作風といった知識としてのイメージが加えられ、造形的な視点をより一層豊かにするよう求められている。例えば「中解説」では、「『霧の

かかった景色が水墨画のようだ』『この作品は琳派の雰囲気がある』など、全体を文化的な視点から捉えることも重要¹⁵⁾とされており、「造形メモ」で収集したデータを分析的に、統合的に活用して表現や鑑賞の活動を行うことが考えられる。

「造形メモ」は、児童生徒が、タブレット端末などで作品等の全体や一部を写真に撮り、造形的な特徴と自分のイメージを画面上に書き込むものである。使用の実態を図2に、「造形メモ」の使用の流れを表6に示す。

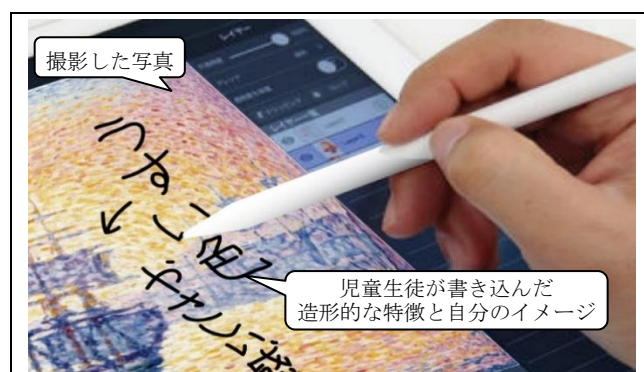


図2 タブレット端末を使った「造形メモ」の実態

表6 「造形メモ」の使用の流れ

手順	①撮影	②造形的な特徴を捉える	③イメージを捉える	④活用
活動内容	作品等の全体や自分が気になった一部などを撮影する。	造形の要素がどのようなものであるか、自分の考えを画像上にメモする。	②に対する自分のイメージを画像上にメモする。	②、③で記述したメモを、表現や鑑賞の活動で生かす。

また、画面上で造形についてメモをし、スクリーンショットなどで保存し、共有フォルダに保管しておく。これにより授業の話し合い以外の場面でも閲覧ができ、友人が考えたことや感じたことも自分の表現や鑑賞の活動に生かすことができる。

これらのメモが、表現の活動では、作品づくりの参考となったり、自己評価に活用されたりし、鑑賞の活動では、メモを基に話し合ったり、友人とイメージを共有することに活用されたりする。

(4) 本研究における指導の工夫について

前述のように、表現及び鑑賞の活動を通して、〔共通事項〕の内容を適切に位置付け、指導することが求められている。また〔共通事項〕の内容は、一朝一夕に身に付くものではなく、〔共通事項〕を個別に指導するものでもない。日々の活動を通して日常的に繰り返すことが肝要であると考えられる。このことから、「造形メモ」の活用例について表7に示す。

表7 「造形メモ」の活用例

	蓄積 捉えた造形的な特徴とイメージ を保存する。	活用 捉えた造形的な特徴とイメージ を活動に生かす。
表現	材料の触った感じや特徴、性質などから気付いたことなどをメモする。	メモを基に作品の主題を生み出したり、アイデアを練ったりする。
鑑賞	作品の形や色などから気付いたことをメモする。	メモを基に話し合う。メモを基にまとめる。
振り返り	自他の作品、発表などから気付いたことをメモする。	これまでのメモを参照して題材や学期を振り返る。

そして、この「造形メモ」は、特定の題材を選ばず、年間を通してどのような題材にでも対応できるものと考えます。例えば、ある活動で気付いた概念やそこから得たイメージが、別のある活動の視点に生かされるということがある。そういった点で、「造形メモ」は、あらゆる鑑賞題材で、着眼点や思考の根拠となり、あらゆる表現題材で、発想や構想の手助けや振り返りの契機となる。

学習の積み重ねが功を成す性質をもつ「造形メモ」は、年月を重ねるほど造形と豊かに関われるようになっていくと考えます。9年間の蓄積の後には、どれほど教科の本質に迫っているか計り知れないが、本研究では、中・長期的な題材で「造形メモ」を活用し、造形的な見方・考え方を働かせることができたかどうかを、小学校高学年と中学校にて検証する。

Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

表現及び鑑賞の活動の中で、造形的な特徴を捉えるメモを活用すれば、造形的な見方・考え方を働かせることができるであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表8に示す。

表8 検証の視点と方法

検証の視点	方法
造形的な見方・考え方を働かせることに「造形メモ」の活用が有効だったか。	感想文、行動観察、鑑賞文、作品、造形メモ、アンケート

Ⅳ 研究授業について（小学校）

1 研究授業の内容

○ 期 間 令和2年9月1日～令和2年10月20日

○ 対 象 兼務校第5・6学年11名（複式学級）

○ 題材名 ほにやららまち

○ 目 標

(1)	形や色などによる空想絵画表現のおもしろさなどを、絵に表す活動や鑑賞の活動を通して理解するとともに、これまでに扱ってきた用具を使い、表し方などを工夫して、創造的に表す。
(2)	造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、空想絵画に対する自分の見方や感じ方を深めたりする。
(3)	主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

○ 指導計画（全14時間）

次	時	活動内容と造形メモの使用方法
1	1～2	鑑賞作品群の気になった部分をタブレット端末で撮影し、造形的な特徴についての気付きを記し、「造形メモ」としてデータを保存する。
2	3～4	想像の町のアイデアスケッチをする。
3	5～6	「造形メモ」を基に他者の表現について考えることにより自身の表現の工夫について再考する。
4	7～12	表したいことを、表し方を工夫して創造的に表す。自身の作品について、形や色などに着目して振り返ったことを「造形メモ」としてデータを保存する。
5	13～14	「造形メモ」を基に互いの作品を鑑賞する。

2 研究授業の分析と考察

(1) 表現の活動の中で造形的な見方・考え方を働かせることができたか

本題材の表現の活動において、造形的な見方・考え方を働かせることができたか、作品とワークシートから表9のルーブリックにより評価する。ワークシートでは、「どんな町を表したいか」「そのためにどのような工夫をするか」「工夫できたこと」を記述させた。

表9 表現の活動の中で造形的な見方・考え方を働かせることができたかを評価するためのルーブリック

評価	評価基準
A	自分の表したいイメージを豊かにもち、造形的な特徴に着目し、自分なりに表し方を工夫している。
B	自分の表したいイメージをもち、造形的なよさや美しさについて考えて、自分なりに表している。
C	Bを満たしていない。

(2) 表現の活動の中で造形的な見方・考え方を働かせることに「造形メモ」が有効だったか

「造形メモ」を活用していたかを評価するためのルーブリックを次頁表10に示す。

表10 「造形メモ」を活用していたかを評価するためのルーブリック

評価	評価基準
A	自分や友人の「造形メモ」を基に、対象の造形と深く関わり、表現及び鑑賞の活動の中で豊かに活用している。
B	「造形メモ」が、表現及び鑑賞の活動の中で十分に活用されている。
C	Bを満たしていない。

表9により評価した「造形的な見方・考え方を働かせることができた児童」と、表10により評価した「造形メモを活用できた児童」のクロス集計の結果を表11に示す。

表11 「造形メモ」の活用と造形的な見方考え方を働かせることとの関係を示すためのクロス集計【表現】 (人)

造形的な見方・考え方を働かせることができたか					
活用できたか 造形メモを		A	B	C	総計
	A	4 (b児)	2	1 (a児)	7
	B	2	1	0	3
	C	1	0	0	1
	総計	7	3	1	11

「造形メモ」を活用でき、見方・考え方を働かせている児童が9名と、多くの割合を占めていることが分かる。しかし「造形メモ」は活用できているが、表現の中で見方・考え方を働かせることができていない児童(a児)が確認された。「造形メモ」の活用と見方・考え方への作用が顕著だったb児を比較対象に挙げ、2児が表現に生かしたと思われる「造形メモ」やワークシートの記述等を表12に示す。

a児は、友人の「造形メモ」にある「登場人物の動作や表情で気持ちを表現する」という工夫を自分の表現に生かすことができた。しかし、表情を描いて気持ちを表す工夫は、表2のイ第3学年及び第4学年において求められている「形の感じを捉える」という段階に止まると思われる。このことからa児は、同表ウ第5学年及び第6学年において求められている内容を十分に満たしているといえないと分析し、発達段階に応じた〔共通事項〕に示す事項の視点を十分に活用しておらず、造形的な見方・考え方を十分に働かせるには至っていないと考えられる。

b児は「造形メモ」から、白やピンクなどの色が、優しく楽しい印象を与えることに気付き、イメージに合った色遣いをすることができた。〔共通事項〕ア(表2)と照合すると「色の鮮やかさ」について理解し、表現に生かしていることが当てはまる。また、中学校美術科〔共通事項〕ア(表3)にある「色のもつ性質や感情にもたらす効果」にも気付き、配色を工夫していることも見られる。つまり、発達段階に応じた〔共通事項〕に示す事項の視点が表現の活動の中で十分に活用され、造形的な見方・考え方を十分に働かせることができていていると考えられる。

表12 a児とb児の「造形メモ」と表現の工夫の比較

	a児	b児
「造形メモ」 導入鑑賞で保 存した本人の	洋風、和風、色々な部屋がある。細かい。 木が多い。コケが生えている。 建物が古そう。	(白やピンクなどの)色がやさしいから楽しそう。 街と建物の中の絵が描いてあるのとても不思議な感じ。
「造形メモ」 友人の 表現に生かしたと思われ	(猿の顔が)一つ一つ表情が細かく描いてあって気持ちが分かる。 (登場人物が)行事などをしてから生きている感じに見えた。	いろんな家があって面白いと思った。 雲の所に影があってもこもこしている。立体感がある。
「造形メモ」 表したいか どんな町を	ロボットが住む町。	楽しい町。にぎやかでカラフルな町。空の上の町。
「造形メモ」 工夫をするか そのために どのような	車や建物を近未来にする。白や黒、水色など。	カラフルだけど色はやさしい色。色んな形の建物を描く。細かいところまでしっかり描く。
「造形メモ」 振り返りの 製作中の	ロボットを増やしたい。 海の上にしたい。建物は全体的に青。	雲の形を使って、ふわふわな感じにした。 にぎやかにしたいから、パステルカラーのいろんな色を使う。
「造形メモ」 工夫できた こと	ロボットを人間のようにした。なのでロボットの気持ちが伝わるようにできた。	虹のグラデーションを作ることができた。色々な形の建物を描いたので楽しそうにわくわくするような町が描けた。
「造形メモ」 作品の関連性	「造形メモ」を参考に、ロボットの表情を細かく描いて、その気持ちが伝わるようにすることができているが、使われている形や色は自分の表したいイメージとは関連していない。	「造形メモ」から、白やピンクなどの色が優しく、楽しい印象を与えることに気付く。表したいイメージに合った色遣いをする事ができている。
児童の作品		

アンケートでは、「造形メモは、作品をかく時に手助けになりましたか?」という設問について、11人中10人の児童が肯定的回答をしていた。その理由の一部を示す。

- ・造形メモを書くとき、改めて「こうしよう」「もっと色を濃く塗ろう」などを思いついて描けた。
- ・書いたことを意識しながら作品を作ることができたから。
- ・前の絵(画像)を何度も見て、どんな風にしたら良いか、考えることができる。
- ・みんなのメモを見て、「影をつくって立体的」と書いてあって、私も立体的にしようと思ったから。
- ・次に絵を描くときに生かせる。(a児)

アンケートの記述(一部)

アンケートの記述より、肯定的回答をした児童は、友人が気付いた造形的な特徴を共有したり、製作過程を振り返ったり、見通しを立てたりすることに「造形メモ」が役立ったと認識していることが分かる。

(3) 鑑賞の活動の中で造形的な見方・考え方を働かせることができたか

本題材終末の相互鑑賞の活動において、造形的な見方・考え方を働かせることができたか、感想文を表13のルーブリックにより評価する。

表13 鑑賞の活動の中で造形的な見方・考え方を働かせることができたかを評価するためのルーブリック

評価	評価基準
A	形や色などによる空想絵画表現のおもしろさなどを理解し、それを根拠に、作品に対してイメージを豊かに広げている。
B	形や色などによる空想絵画表現のおもしろさなどを理解し、作品に対するイメージをもっている。
C	Bを満たしていない。

(4) 鑑賞の活動の中で造形的な見方・考え方を働かせることに「造形メモ」が有効だったか

「造形的な見方・考え方を働かせることができた児童」と「造形メモを活用できた児童」を表10、13により評価した。そのクロス集計を表14に示す。

表14 「造形メモ」の活用と造形的な見方・考え方を働かせることとの関係を示すためのクロス集計【鑑賞】 (人)

		造形的な見方・考え方を働かせることができたか				
活用 できた か	造形メモを		A	B	C	総計
		A	5	0	0	5
		B	1	3	0	4
		C	1 (c 児)	1 (a 児)	0	2
		総計	7	4	0	11

クロス集計から、全体的に「造形メモ」を活用できている児童ほど、鑑賞の活動で造形的な見方・考え方を働かせることができていることが分かる。

アンケートでは、「造形メモを使うと、友達への感想は書きやすかったですか？」という設問について、11人中10人の児童が肯定的回答をしていた。その理由の一部を以下に示す。

- ・イメージしたことを書き、感想を書く時につなげやすかったから。
- ・友達の作品の形や色などに気付けるから。
- ・矢印を描くとより分かりやすくなるし本物の上で書くより作品がぐちゃぐちゃになってしまいうけど画面の中だから書きやすかった。
- ・その人がどのような感じにしたいのかが分かるから。(a児)

アンケートの記述 (一部)

アンケートの記述より、肯定的回答をした児童は、

形や色などの造形的な特徴に気付くことや、そこからイメージをもって感想を述べることに価値を感じ、鑑賞の活動の中で「造形メモ」を十分に活用していることが分かる。

しかし、感想文の記述からは「造形メモ」の活用が見られないが、造形的な見方・考え方を働かせることができた児童 (a児, c児) が確認された。2児の前題材と本題材の感想文を表15に示す。

表15 相互鑑賞におけるaとc児の感想文の比較

前題材 (「造形メモ」不使用)	本題材 (「造形メモ」使用)
a児	
葉の色がたくさんあったのいいと思いました。木のバランスがよかったと思いました。	上にいくほど <u>だんだん薄い青色</u> になっていた。上の方は光が当たって <u>明る</u> いんだと思いました。生き物が近くで <u>泳いでいる</u> 。生き物と人の仲が <u>いい</u> んだと思いました。
生き物がたくさんいて、いいと思いました。下の方にも、葉があつていいと思いました。	左右にある <u>建物</u> が <u>左右対称</u> 。道が上にいくほど <u>明る</u> くなっている。建物は、 <u>鏡</u> になっているのかも。暗い所から来ている？
c児	
葉がおいしげっているように、つめてある所がすごい。また、虫などの生き物がたくさんいて、それでいて散らかっていない。	建物は、色が薄くなったり形が同じなのでカラーコピーされた世界なのではないかと思う。人のシルエットと黒いシルエットで人が何をしているのか分かる。
木がはみ出しているの、木が空高く続いていて、その大木と生き物のそれぞれにはいろいろなストーリーがあるように見え、とてもいい作品だった。	ガラスのドームのような所が、今より少し進歩した感じがして、過ごしやすそう。歩いているのがロボットだったり、整備された道と建物しかないのも未来っぽい。

「造形メモ」を使用しなかった前題材のa児の感想文は、造形的な特徴の記述に具体性が乏しく、他者の作品を見た際に受けたイメージの記述もない。

一方、〔共通事項〕に示す事項の視点で「造形メモ」を蓄積してきた本題材でa児は、表15の波線部のように造形的な特徴の具体を述べている。破線部からも、自分のイメージをもって作品を解釈する様子が見られ、表13による評価はBとした。表10による評価は「造形メモ」と関連する語句がなくCとしたが「造形的な特徴を捉える、イメージをもつ」という「造形メモ」の指導により、前題材と比べ造形的な見方・考え方を働かせるようになったと考える。

c児は、表15の下線部にあるように、前題材から、独自の感性や経験を基に造形的な見方・考え方を豊かに働かせており、本題材の感想文もA評価とした。「造形メモ」の記述も「造形的な特徴を捉える」「イメージをもつ」とともに満たしている。しかし、感想

文を書く場面では、その時の彼の想いに沿う言葉が、蓄積してきた「造形メモ」からは見つからず、授業の後半は「造形メモ」を参照せず活動していた。つまり、その場で作品の造形的な特徴を捉え、自分のイメージをもち、感想を述べたのである。また「造形メモを使うと、友達への感想は書きやすかったですか？」というアンケートに対し否定的回答をし、その理由を「言葉選びが難しいから」と答えた。これらのことから「造形メモ」を感想文に活用するという手段は、彼には有効でなかったことが分かる。

(5) 研究授業の成果と課題

研究授業やアンケートの分析から「造形メモ」の活用が、造形的な見方・考え方を働かせることに、多くの児童にとって有効であることが分かった。次題材も「造形メモ」の蓄積を教科担任に依頼したところ、造形的な特徴以外についての振り返りが増えた。児童の記述例を次に示す。

- ・右の竹は彫れた。次はレッサーパンダを彫るけど、鼻と口は白くなるから竹と（彫り方を）反対にする。
- ・次はキツネらしさを出したい。
- ・彫るときに力が入るとはみ出てしまうから、丁寧に彫る。
- ・カーブが難しかった。

次題材『版画』における「造形メモ」による振り返りの例

記述からは、製作の見通しや技能に関する気付き、構想への展望などが見られる。このことから「造形メモ」は使用の際「形や色がどのようなイメージか」「どのようなイメージか」などの〔共通事項〕に示す事項の視点で教師から児童への問いかけが無い場合、造形的な見方・考え方の育成に特化しないことが分かる。したがって、児童が〔共通事項〕に示す事項の視点で対象と能動的に関わるように教師が問いかけるといった支援を継続しなければならないと考える。そのため、表12におけるa児のように、発想段階で造形的な特徴についての記述がない場面でも、同様の支援が必要と考える。〔共通事項〕に示す事項の視点による問いかけの例を表16に示す。

表16 〔共通事項〕に示す事項の視点による問いかけの例

課題	改善につながる問いかけ
造形的な特徴の記述がない。または乏しい。	・どこを見てそう思った？どんな色かな？ ・明るさ、色の種類はどう？ ・形はどうなっているかな？ ・形って何かな？直線、くねくね、丸い？ ・太い、長い、尖ってる？ ・数や量、方向やバランスは？
イメージの記述がない。または乏しい。	・形や色からどんなことを思い浮かべたかな？ ・連想したこと、似ていると思ったことは？ ・～のようだ。～みたいだ。

また、c児のように「造形メモ」を活用せず造形的な見方・考え方を働かせている児童には、「造形メモ」を活用する場面で、本人が気付いていない造形の要素などについて教師が問いかけ、児童の視野を広げさせることが考えられる。

V 研究授業について（中学校）

1 研究授業の内容

- 期 間 令和2年8月31日～令和2年10月12日
- 対 象 所属校第2学年13名
- 題材名 和の扇子
- 目 標

(1)	形や色彩、構成などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解し、水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表す。
(2)	和を感じるモチーフを見つめ感じ取った対象の形や色彩の特徴や美しさなどを基に主題を生み出し、画面全体とモチーフの関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ったり、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げたりする。
(3)	美術の創造活動の喜びを味わい表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

○ 指導計画（全13時間）

次	時	活動内容
1	1	和を感じる美術作品などを鑑賞する。（造形メモなし）
2	2	伝統色と構成美について学習する。（造形メモなし）
3	3	扇子の絵柄の構想を練る。（造形メモなし）
4	4～9	扇子の制作を進める。（造形メモなし）
5	10～12	扇子の制作を進める。（造形メモあり）
6	13	相互鑑賞をする。（造形メモあり）

2 授業の実際と指導の工夫

当該学年では、制作途中の作品が生徒自身の表したいイメージに近づいているかを見直す機会として「造形メモ」を活用した。毎授業の終わりに、制作途中の作品をタブレット端末で撮影し、「形や色がどのようなイメージか」「どのようなイメージにしたいか」などを画面上で記し、データとして保存させた。「造形メモ」使用の際には、小学校での実践を省み、表16における問いかけを適宜行った。検証を始めた10時の「造形メモ」を図3に示す。

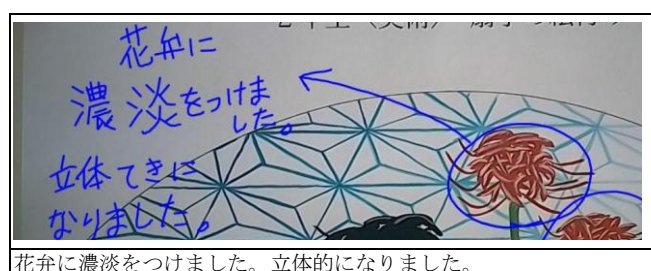


図3 「造形メモ」による制作途中の振り返り

3 研究授業の分析と考察

(1) 表現の活動の中で造形的な見方・考え方を働かせることができたか

表現の活動において、造形的な見方・考え方を働かせることができたか、作品や説明文から表17のルーブリックにより評価する。

表17 表現の活動の中で造形的な見方・考え方を働かせることができたかを評価するためのルーブリック

評価	評価基準
A	形や色彩、構成などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解し、それを基に豊かに表している。
B	形や色彩、構成などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴、美しさなどを全体のイメージで捉えることなどを理解し、自分なりに表している。
C	Bを満たしていない。

(2) 表現の活動の中で造形的な見方・考え方を働かせることに「造形メモ」が有効だったか

「造形メモ」を活用しているかを評価するためのルーブリックを表18に示す。

表18 「造形メモ」を活用しているかを評価するためのルーブリック

評価	評価基準
A	自分や友人の「造形メモ」を基に、対象の造形と深く関わり、表現及び鑑賞の活動の中で豊かに活用している。
B	「造形メモ」が、表現及び鑑賞の活動の中で十分に活用されている。
C	Bを満たしていない。

表17により評価した「造形的な見方・考え方を働かせることができた生徒」と、表18により評価した「造形メモを活用できた生徒」のクロス集計の結果を表19に示す。

表19 「造形メモ」の活用と造形的な見方考え方を働かせることとの関係を示すためのクロス集計【表現】 (人)

		造形的な見方・考え方を働かせることができたか				
活用できたか	造形メモを		A	B	C	総計
		A	3	2	0	5
		B	2	5(生徒d)	0	7
		C	0	1(生徒e)	0	1
		総計	5	8	0	13

クロス集計から「造形メモ」を活用することができ造形的な見方・考え方を働かせている生徒が、13名中12名と多くの割合を占めていることが分かる。

「造形メモ」の活用と、見方・考え方を働かせることができた生徒dの「造形メモ」と活動の様子を表20に示す。教師は、1時の「造形メモ」による振り返りから、生徒dが表したいイメージと造形的な特徴を、具体化・言語化させる必要性を感じ「共通

事項」に示す事項の視点からの問いかけを行った。表中の下線部がその問いかけである。10時「造形メモ」の波線部「少し色が違います」というメモを取り上げ問いかけることで、その表現（紺から青のグラデーション）の意図と表したいイメージを結びつけさせることができた。そして、絵の中央を流れる川をどのように塗るか迷う様子を受け、同様の問いかけにより、生徒dのもつ「サーッと流れる感じの川」のイメージと「大胆で勢いのある線」という造形的な特徴を結びつけることで、生徒dはイメージに沿って表現を工夫することができた。そして授業の終末では、自覚した表現の工夫について「造形メモ」にて振り返ることができた。さらに破線部のように、題材全体を振り返ったまとめの記述に、その「造形メモ」が生かされていることが分かる。

表20 生徒dの「造形メモ」と活動の様子

生徒dの活動の様子	
10時の「造形メモ」による振り返り	
11時 〔共通事項〕 に示す事項の 視点からの 問いかけ	T「背景が塗れたね。右と左をわざと違う色にしたんだね。水で薄めるの難しかったでしょう。」 d「そうですよ。グラデーションですよ。」 T「何かイメージしたんだね。」 d「イメージ？」 T「季節とか時間とか思い浮かぶ景色とか？」 d「夜ですね。あ、でも真夜中じゃないです。夜が終わりそうなのをグラデーションで描いたんです。」 T「なるほど。何か迷ってるの？」 d「川をどう塗ったらいいかわからないんですよ。」 T「どんな川にしたいの？」 d「サーッと流れる感じの川。」 T「サーッと静かな感じ？サラサラ流れる？」 d「いや、シューッ！って。（大きく手を動かす）」 T「流れは速いんだね？じゃあどんな線がいい？」 d「勢いがある感じに。大胆に。」 T「大胆な線ってどんな感じ？」 d「こんな感じにシューッって。（筆を動かす）」
11時の「造形メモ」による振り返り	
完成作品	
題材全体を振り返ったまとめの記述	紅葉をモチーフにし、雲の伝統文様を使った。流れるようにするために、川を金色で大胆に塗った。夜明けを表すために、空は青のグラデーションにした。

このように、「造形メモ」が〔共通事項〕に示す事項の視点による指導のきっかけとなり、また、新たに自覚した視点を「造形メモ」として蓄積することで、次時や次題材においても〔共通事項〕に示す事項が表現の活動に活用されると考えられる。

一方で、表19における生徒 e は「造形メモ」の活用で課題があった。毎授業の終末に、制作途中の作品を撮影し、「造形メモ」にて振り返り、保存するよう指導しているが、道具の片付け等の時間に追われて「造形メモ」を保存できないことが多かったことが教科担任から報告された。そして保存された「造形メモ」は書きかけのものが多く、表したいイメージや造形的な特徴の具体を記すことができていなかった。これは、蓄積の時間確保の問題と捉え、授業終了後に記録させるのではなく、授業計画の一つとして指導しなければならないと考える。

(3) 鑑賞の活動の中で造形的な見方・考え方を働かせることができたか

題材終末の友人の作品を互いに鑑賞する活動において、造形的な見方・考え方を働かせることができたか、表21のルーブリックにより評価する。

表21 鑑賞の活動の中で造形的な見方・考え方を働かせることができたかを評価するためのルーブリック

評価	評価基準
A	形や色彩、構成などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に、美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解し、それを根拠に、作品に対して豊かなイメージを広げている。
B	形や色彩、構成などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴、美しさなどを全体のイメージで捉えることなどを理解し、作品に対するイメージを広げている。
C	Bを満たしていない。

「造形メモ」を使用していない前題材と、使用した本題材の鑑賞文を、表21のルーブリックにより評価した結果を表22に示す。

表22 鑑賞の活動の中で造形的な見方・考え方を働かせることができた生徒数の比較 (人)

評価	前題材 「造形メモ」不使用	本題材 「造形メモ」使用
A	2	6
B	8	7
C	3	0
総計	13	13

前題材と比べて評価が下がった生徒はおらず、評価が上がった生徒は13名中7名だった。また、前題材で造形的な見方・考え方を働かせることができていなかったC評価の生徒3人は、「造形メモ」を使用した本題材では、すべてB評価以上となった。変容が見られた生徒 f, g, h の鑑賞文を表23に示す。

表23 鑑賞文の変容

生徒	前題材「篆刻」 「造形メモ」不使用	本題材「扇子の絵付け」 「造形メモ」使用
f	B評価 枠の所にラインが入っているのいいね。カーブが多いのに上手に削っていてすごいと思う。	A評価 波紋がたくさん描かれているから、金魚が活発に泳いでいるように見える。それとは逆に朱色にとっても味わいがあって落ち着いているイメージもしていて、波紋の様子とも違って良いと思う。
	C評価 とてもシンプルで、字が分かりやすい。	B評価 尾びれやむなびれが、先にいくほど色が薄くなっていてグラデーションがすごい。ゆったりと泳いでいる様子が分かります。
g	B評価 シンプルなデザインで安定感のあるハンコなのでとても素敵だね。	B評価 シンプルだけど、そこに線の太さで動いているような感じが出せているのがすごいなと思いました。またこんなデザインを考えようと思った発想がすごいなと思いました。

表23の変容に見られるとおり、どの生徒も、造形的な特徴を具体的に捉えることができるようになり、そこから自分のイメージを広げることができるようになっている。

4 研究授業の成果と課題

作品に対し「形や色がどのようなものであるか」「どのようなイメージか」という〔共通事項〕に示す事項の視点で問いかけや声かけをしながら「造形メモ」を繰り返し使用することで、造形的な見方・考え方を働かせる生徒が増加した。

しかし、前述したように美術科では、図画工作科における見方・考え方と比べ、造形の要素への理解の深さや、全体のイメージや作風で捉えるといった視野の広さが求められている。作風で捉えるとは作風や様式などの文化的な視点で捉えることなど⁽¹²⁾であり、知識として扱われるこの〔共通事項〕イは、図画工作科との大きな違いともいえる。「造形メモ」が、学校段階間をつなぐ役目の一端を担うには、児童生徒の「イメージについての気付き」をどのように活用するかにかかっていると思われる。

これらの成果と課題を考慮し、「造形メモ」を「作風や様式などの文化的な視点で捉えること」に活用する例を示す形で、研究授業を行った。

VI 研究授業について (中学校第3学年)

1 研究授業の内容

- 期 間 令和2年10月29日～令和2年11月10日
- 対 象 所属校第3学年10名
- 題材名 人類が描いてきたもの
- 目 標

(1)	立体感や遠近感、形や色彩などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることについて理解する。
(2)	美術作品の造形的なよさや美しさ、創造的な工夫などについて

	独創的・総合的に考え、我が国と諸外国の美術文化に対する見方や感じ方を深める。
(3)	美術の創造活動の喜びを味わい鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとする。

○ 指導計画（全3時間）

時	活動内容
1	日本や諸外国の風景を表す様々な美術作品を鑑賞し、作品を撮影して「造形メモ」を保存する。
2	「造形メモ」を基に作品を分類しながら、作品を作風や様式などの文化的な枠組みで捉え、見方・感じ方を深める。
3	歴史的、文化的な事実などを整理し、考えをまとめる。

2 授業の実際と指導の工夫

当該学年では、1時で〔共通事項〕アの内容（表2，3）の視点で「造形メモ」を保存させ、2時でそれを基にした絵画カードを、時代や文化で分類させながら、風景表現にはどのような歴史的な流れがあり、なぜこのような絵画が描かれてきたかなどを考えさせた。基になった「造形メモ」やカードの例を図4に示す。

【生徒iの造形メモ】
左側の山は、はっきりと
左側で、右側の山はあ
いまいに描かれている。
こうすることで距離を感
じる。

【生徒jの造形メモ】
正確な形にせず、景色
を表している。

図4 「造形メモ」と鑑賞に使う絵画カード

3 研究授業の分析と考察

鑑賞の活動で造形的な見方・考え方を働かせることができたか、表24のループリックにより評価する。

表24 鑑賞の活動の中で造形的な見方・考え方を働かせることができたかを評価するためのループリック

評価	評価基準
A	形や色彩などが感情にもたらす効果などを基に、美しさなどを作風や様式などで捉えることを理解し、それを根拠に、作品に対し豊かなイメージを広げている。
B	形や色彩などが感情にもたらす効果、作風や様式などで捉えることを理解し、自分としてのイメージを広げている。
C	Bを満たしていない。

「造形メモ」を使用していない前題材と、使用した本題材の鑑賞文を、表24のループリックにより評価した結果を表25に示す。

表25 鑑賞の活動の中で造形的な見方・考え方を働かせることができた生徒数の比較（人）

評価	前題材 「造形メモ」不使用	本題材 「造形メモ」使用
A	0	7
B	4	3
C	6	0
総計	10	10

前題材と比べて評価が下がった生徒はおらず、全ての生徒の評価が上がった。変容が見られた生徒のうちk，ℓ，mの鑑賞文を表26に示す。

表26 鑑賞文の変容

生徒	前題材 「パッケージデザイン」 「造形メモ」不使用	本題材 「人類が描いてきたもの」 「造形メモ」使用
k	B評価	A評価
	写真を撮るときは自然光と逆光を使い、レフ板で反射させて、食べ物をおいしく写していることが分かった。文字の並べ方も考えることが大事だと思った。	日本では、和の美をみんなに感じてほしくて、作者が感じた様子や風景をそのまま描いた。西洋では、注目を集めるために、 <u>リアルな絵をだんだん個性的で幻想的な絵にした</u> 。そして、他国の独自の思考や文化を否定せず、和と洋のそれぞれの描き方を大切にしてきた。日本と西洋独自の絵から両方の良い所を融合させ、 <u>個性的な絵や自分の描きたい絵を自由に描くことに価値がある</u> と思った。
ℓ	C評価	A評価
	写真の構図を考えて、S字やC字にチョコを並べて撮影する方法があるんだと思った。写真の撮り方も撮った後もこだわってレイアウトするとい	人類は、そのまま見た風景や自分の想像した絵を描いてきた。日本では和のような色や感じから、鮮やかで細かい描き方へ、西洋では、細かい絵から想像の絵になり、個性を出して人々に影響を与えていった。そして、そのまま見たものではなく、自分の考えや描き方などを世に出していった。人類は、いろいろな組み合わせや工夫をして自分自身の気持ちや見たもの、想像したものを描いていったと思う。
m	C評価	A評価
	文字やロゴを並べるときに、シンメトリーやグラデーションなどの構成美の要素を使うと良く見えることが分かった。	日本は美しい風景を後世にも残していきたいと描こうとし、西洋は注目を集めるために幻想的な風景を描こうとしたと思う。和と洋それぞれの描き方を大切にしてきたことに価値があり、これからも日本と西洋の独自の思考を発展させていくことに意味があると思う。

この3名は、前題材では造形の要素への理解は十分といえるが、全体のイメージや作風で捉えることについては理解が不十分で、作品に対するイメージを広げたり深めたりすることができなかった。

しかし本題材では、1時における「造形メモ」蓄積で注目した造形的な特徴を基に、2時の鑑賞活動を行ったところ、作品を作風や様式などの文化的な枠組みで捉え、イメージを広げることができた。

例えば生徒kは、図4における生徒i、jが「造形メモ」で捉えた造形的な特徴についての記述などを基に、グループ内で話し合った結果、表26の波線部のように、西洋絵画の変化を「リアルな絵をだんだん個性的で幻想的な絵にした」という作風で捉えた。そして下線部のように「日本と西洋独自の絵から両方の良い所を融合させ、個性的な絵や自分の描きたい絵を自由に描くことに価値があると思った。」と、日本と西洋の作風から、絵画に対する見方や感じ方を深めることができた。それはつまり、作品の造形的な特徴や全体のイメージ、作風などを捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことができたといえる。まさしく中学校の発達段階に応じた〔共通事項〕に示す事項が、鑑賞の活動の中で十分に活用された姿なのである。

4 研究授業の成果と課題

所属中学校において特に課題であった鑑賞の活動の中で造形的な見方・考え方を十分に働かせることができていないことは、すなわち「造形的な特徴への理解」と「全体のイメージや作風で捉えること」への困難さでもあった。本研究授業では「造形メモ」の蓄積により「造形的な特徴への理解」を促し、その活用によって「全体のイメージや作風で捉えること」ができるようになったと考える。

しかし、本題材で身に付けた造形的な見方・考え方を、次題材以降も活用することが大切である。それは、今回の鑑賞の活動で捉えた作風や様式、文化的な違いなどを別の鑑賞の活動において思考の拠り所にしたり、表現の活動において自分の作品に引用したりすることである。そのためには、〔共通事項〕に示す事項の視点による指導を継続することや、「造形メモ」の蓄積と活用によって、造形的な視点をより豊かにしていく必要があると思われる。

Ⅶ 年間の研究のまとめ

1 研究の成果

- 「造形メモ」の活用が、造形的な見方・考え方を働かせることに有効であることが分かった。研究授業を行った小・中学校では、前題材と比べ、表現及び鑑賞の活動の中で造形的な見方・考え方を働かせることができた児童生徒が増加した。これが、美術科・図画工作科で育成すべき資質・能力につながると思われる。
- 「小解説」と「中解説」を照らし合わせ、発達段階に応じた「造形メモ」の活用方法を吟味し実践することができた。学校段階間を越えても「造形メモ」が有効に活用できることが分かり、小・中の学びの連続性を確保することへの可能性を示せた。

2 研究の課題

- 「造形メモ」を活用していないと評価した児童生徒の中には、作品や記述、発話では見取ることができない活用実態があった可能性も考えられる。そのため、「なぜそのような考えや表現に至ったか」などを改めて聞き取ることや、逐一のフィードバックにより造形的な見方・考え方を支援することが、手立てとして考えられる。
- 「造形メモ」は、ネットワーク上の共有フォルダに保存し、誰でも自由に閲覧できるが、データに系統の分類がないことから、蓄積する際の保存方法に課題があると考ええる。題材の種類や造形の要素、記録者などで簡単にソートできるようにし、見やすさと使いやすさの向上を図りたい。例えば「緑色」「水彩画」「5年生」等の検索ワードを選択すると、5年生が保存した緑色に関連する記述や、緑色が多く使われている水彩画の「造形メモ」が閲覧できるといったソフトなどが考えられる。ファイル分類・蓄積ソフトのイメージを図5に示す。図5に示すようなソフトをネットワーク上に実装できれば、「造形メモ」の活用方法が幅広くなったり、学校段階間の学びの連続性も高まったりすると考える。例えば個人では、中学校の活動で、小学校時に蓄積したデータを見返し、現在と過去の自分の価値観が異なる場合、それが表現自体の拡張になったり、鑑賞における考えの深まりになったりすることが考えられる。つまり、過去の自分と対話することで知識や思考、表現の幅がアップデートされるのである。また、学齢を越えて類似の題材があった場合、異なる小学校・学年の視点を参照して活動に生かすということも期待できる。



図5 共有ファイルの分類・蓄積ソフトのイメージ

【注】

- (1) 初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室『2. 新しい学習指導要領等が目指す姿』文部科学省 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364316.htm (最終アクセス令和2年8月6日) に詳しい。
- (2) 文部科学省(平成29年告示a):『小学校学習指導要領』p.109, 文部科学省(平成29年告示b):『中学校学習指導要領』p.107 に詳しい。
- (3) 奥村高明(2016)『遊び!と美術 <Vol.52>図画工作・美術の「見方・考え方」』日本文教出版<https://www.nichibun-g.co.jp/data/web-magazine/manabito/art/art052/> (最終アクセス令和2年8月6日) に詳しい。
- (4) 文部科学省(平成29年告示b):前掲書p.109 に詳しい。
- (5) 文部科学省(平成30年a):『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説図画工作編』日本文教出版p.13, 文部科学省(平成30年b):『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説美術編』日本文教出版p.13 に詳しい。
- (6) 文部科学省(平成30年a):前掲書p.122 に詳しい。
- (7) 文部科学省(平成30年b):前掲書p.118 に詳しい。
- (8) 文部科学省(平成29年告示a):前掲書p.134, 文部科学省(平成29年告示b):前掲書p.112 に詳しい。
- (9) 文部科学省(平成30年b):前掲書pp.47-48 に詳しい。
- (10) 文部科学省(平成30年a):前掲書pp.114-116 に詳しい。
- (11) 文部科学省(平成30年a):前掲書p.103, 文部科学省(平成30年b):前掲書p.49 に詳しい。
- (12) 文部科学省(平成30年b):前掲書p.48 に詳しい。

【引用文献】

- 1) 文部科学省(平成30年a):『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説図画工作編』日本文教出版p.33
- 2) 文部科学省(平成30年a):前掲書p.107
- 3) 文部科学省(平成30年b):『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説美術編』日本文教出版p.29
- 4) 文部科学省(平成30年a):前掲書p.10
- 5) 文部科学省(平成30年a):前掲書p.103
- 6) 文部科学省(平成30年a):前掲書p.122
- 7) 文部科学省(平成30年b):前掲書p.33
- 8) 文部科学省(平成30年a):前掲書p.103
- 9) 文部科学省(平成30年b):前掲書p.78
- 10) 文部科学省(平成30年a):前掲書p.106
- 11) 加賀美信行(2019)『造形的な視点を生かして, つくり, つくりかえ, つくる子供を育てる授業』山梨大学教育学部附属小学校https://www.agr.yamanashi.ac.jp/common/fckeditor/editor/filemanager/connectors/php/transfer.php?file=/uid000003_7A756B6F752E706466 (最終アクセス令和3年2月24日)
- 12) 文部科学省(平成30年b):前掲書p.110
- 13) 文部科学省(平成30年a):前掲書p.55
- 14) 文部科学省(平成30年a):前掲書p.99
- 15) 文部科学省(平成30年b):前掲書p.48